

# まも～れ通信 12月号

発行日：2021,12

発行者：

リスクマネジメント委員会

褥瘡対策委員会

院内感染対策委員会

## 院内感染対策委員会より(2 病棟 神谷)

### ・新型コロナによる就業制限とワクチン接種

11月、日本環境感染学会より新型コロナへの対応ガイドが改定されました。

その中でも今回お伝えしたいのは、職員の就業制限についてです。

職員が濃厚接触者となったとき、これまでは14日間程度の自宅待機と健康観察となっていました。

ワクチン接種の有無などで下記のように変更になっています。

### ・ワクチン接種完了者(2回めの接種後14日間経過)

→必ずしも濃厚接触者とはならない！(免疫を獲得しており二次感染が抑えられるため)

### ・ワクチン未接種者及び未完了者(1回の接種、2回めの接種から14日間経過していない)

→14日間の自宅待機！(これまでと変わらず隔離期間を必ず設ける必要がある)

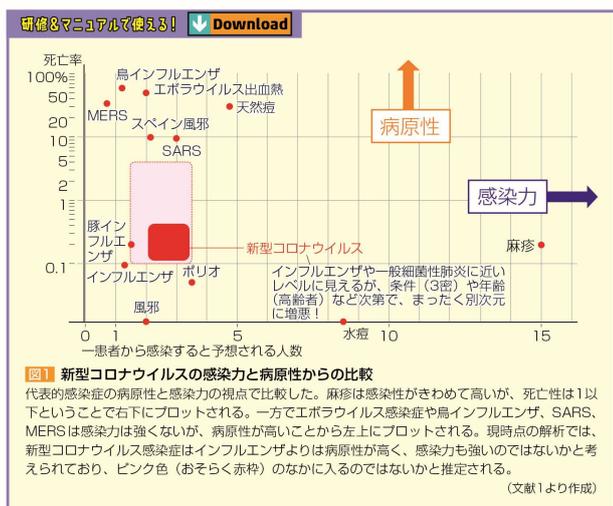
厚労省からの通達事項ではないので、今後当院で発生した場合に札幌市の保健所がどのように判断するのは不明ですが、ワクチンの効果や副作用について明らかになっていることも多く、**就業制限も扱いが変わってくる**

**ことと思われま**す。

これまでにワクチンを打たなかった人で、「やっぱり打ちたい」と希望する人がいれば、**来年の3回目のタイミング**

**に打つこともできます。その前にも可能ですので事務長にお知らせください。**

### ・各ウイルスの死亡率と再生産数



左図はこれまでに流行してきた感染症の病原性と感染力のグラフです。

病原性=死亡率

感染力=再生産数(1人が他に感染させるとされる人数)

となっています。

インフルエンザと比較した時にどちらの数字も新型コロナの方が高いという結果が出ています。

死亡率

再生産数

新型コロナウイルス	1~4%	1.5~2.5
インフルエンザ	0.1%	1~3
ノロウイルス(冬なので)	0.05%	2~4



一覧にするとこんな感じです。

今また、オミクロン株のように新しいタイプのウイルスが流行し始めています。デルタ株の時にはブレイクスルー感染が流行りましたね。次はどうなっていくのか、動向を確認していく必要があります。

どこの病院、施設でもクラスターが発生するときは職員から感染が広がっているのが大きな特徴です。

今やっている対策を習慣にしてこれからも続けていきましょう。

### リスクマネジメント委員会より(デイケア 高田)

今年の医療安全巡回は、転倒・転落について巡回を行いました。

当院で起こる事故としても多く、新型コロナウイルス感染拡大により外出自粛にて自宅に閉じこもるケースが増えており、注意が必要なのが「**転倒**」です。



年を重ねるにつれて転びやすくなり、骨折などのケガをしやすくなります。特に65歳以上の高齢者は要注意です。骨折がきっかけで寝たきりになってしまうことも!!

転倒事故の多くは、住み慣れた自宅で発生しています。

最も多いのは居間です。電気コードやカーペットの端や敷居などのちょっとした段差でつまづくことや段差のないフローリングで足を滑らすこともあります。

また、足を踏み外しやすい階段や廊下、浴室には手すりなどがあると安心です。



予防のためにも、丈夫な骨を維持する食生活、下半身の筋肉を維持する体操など

日頃から注意を向けて下さい。



### 褥瘡委員会より(5病棟 安藤)

#### 【当院で使用できるドレッシング剤と外用薬】

★ポリウレタンフィルム (オブサイト)・・・創面の保護・浸潤環境の維持

<特徴> 発赤や水疱の保護、便尿汚染や摩擦の予防

<用途・注意事項> 発赤や水疱の保護、褥瘡予防、浸出液の少ない場合などに適している。接着剤によるかぶれ、浸出液が多いと皮膚がふやけて湿軟するので注意。感染創には使用不可。

#### ★**ハイドロコロイド（デュオアクティブ）**・・・創面を閉鎖し創面に浸潤環境を形成

<特徴> 創の浸出液を吸収してゲル化し、創面の浸潤環境を保持する。浸出液が少ない創に有用

<用途・注意事項> 真皮あるいは皮下組織に至る創に使用。毎日創部を（剥がさず）観察、交換は約1週間

#### ★**ポリウレタンフォーム（ハイドロサイト AD ジェントル）**・・・浸出液を吸収し保持

<特徴> 深い創に充填し、多量な浸出液を吸収する

<用途・注意事項> 浸出液が多い創に使用。皮下組織に至る創、筋や骨に至る創にも使用。浸出液の吸収状態を確認し、辺縁部から1 cm までに達したら交換する

#### ★**スルファジアジン銀クリーム（ゲーベン）**・・・感染・炎症の防御に使用

<特徴> 乳化性基剤。細菌や真菌に対して幅広い抗菌作用を有する

<用途・注意事項> 感染創または感染疑いがある創（炎症期・壊死期）。比較的浸出液の少ない創に適している

#### ★**ジメチルイソプロピルアズレン（アズノール）**・・・浅い褥瘡の炎症の制御に使用

<特徴> 抗炎症作用がある。抗菌作用は無い。創面を保護する。

<用途・注意事項> 上皮欠損のない創に使用。搔痒感・ヒリヒリ感等の刺激症状がある。